

演 題 名	豚の希少品種「マンガリツア」種の飼養特性		
発 表 者 氏 名	小川さら	所 属	農業大学校 畜産研究科
<p>1 目的</p> <p>畜産試験場には国内の公設試験場では唯一マンガリツア種(以下MGと記載)が飼育されている。MGはハンガリーの国宝と呼ばれ、雄雌双方を飼育している農場は国内に数件しかなく希少品種でありブランド豚肉として有望だと考えられる。しかし、MGの繁殖能力、肥育豚の発育や飼料効率、肉質に関する報告は少ない。そこで、MGによる肉豚生産の参考とするための基礎データを得ることを目的に調査を実施した。</p> <p>2 材料及び方法</p> <p>(1) 繁殖成績の調査</p> <p>畜産試験場で飼育されているMG雌2頭の3産次までの繁殖成績およびその子豚の発育成績等を調査し、受胎率、在胎日数、産子数、離乳頭数、出生体重、離乳体重をWLおよびWLDと比較した。</p> <p>(2) 肥育試験</p> <p>供試豚は、令和5年2月5日生まれのMG8頭(雌3頭、去勢3頭、雄2頭)とし、調査は令和5年5月から開始した。肥育終了は令和6年1月の見込みで調査を継続中である。</p> <p>飼養方法は、13週齢から雌・雄・去勢を各1豚房に振り分け、子豚育成兼肉豚肥育配合飼料(ニューグローア-DX、日本農産工業(株)、TDN:80%以上、CP:15.5%以上)を不断給餌し、飲水は自由飲水とした。調査項目は、発育成績の調査として、体重・体型の測尺(体長・体高・胸幅・胸囲・胸深・後幅・前幅)、飼料効率の調査として飼料摂取量から飼料要求率を算出した。</p> <p>肥育試験豚は試験継続中であるため、令和4年12月生まれの雌3頭を用い、令和5年12月に12か月齢でと畜して枝肉成績を調査した。調査項目は、枝肉重量・枝肉歩留・背脂肪厚等とした。</p> <p>調査成績を比較するための対照として、令和5年3月27日生まれのWLD6頭(去勢)の成績を用いた。</p> <p>3 結果および考察</p> <p>(1) 繁殖成績</p> <p>MGはWLと比べると産子数(MG7.5・WL16.4)、離乳頭数(MG7.4・WL12.6)が半分程度だったが、子豚の出生体重(MG1.4・WL1.2)はWLDよりも大きかった。産子数が少ない分、均等に親からの栄養が移行しやすいためMGのほうが生時体重は大きかったのではないかと考えられる。離乳時の子豚体重、受胎率、在胎日数等は大きな差はみられなかった。</p> <p>(2) 肥育試験</p> <p>出生時から11月末までの発育は、50日齢程度までは大きな差はなかったが、それ以降MGの発育が遅れた。また、WLDは150日齢まで継続して体重が増加し続けたが、MGは100日齢頃から体重の増加が緩やかとなり、出生時からの1日平均増体重ではWLDの半分以下(MG373g、WLD942g)だった。ただし、標準偏差はMGが小さく、バラツキは小さかった。同じ体重での体型の測尺値は、体長、胸囲、体高においてMGがWLDより大きく、MGは毛を多くまとっているため外見上大きく見えるが、実際にWLDよりも大きいことがわかった。肥育試験開始時から現在までの飼料要求率は、MGがWLDに比べ肥育期間が長いので飼料摂取量が多く、要求率もMGが大きくなった(MG4.84、WLD2.83)。MGは現在も肥育中であり、肥育終了時までの飼料要求率はさらに大きくなる可能性がある。</p> <p>枝肉成績では、と畜前体重がMG119.6kg、WLD123.8kgに対して、枝肉重量はMG83kg、WLD82.5kgで、枝肉歩留はMG69.4%、WLD66.7%とMGが良好だった。ただし、背脂肪の厚さはMG4.8cm、WLD2.3cmとMGが2倍程度厚かった。MGはラードタイプの品種で脂肪の付着量が多いとされているが、予想どおりの結果となった。ただし、その脂肪は良質で食味も良好とされていることから、MG豚肉を販売する際の特色として生かすことが有効である。</p>			